

事業名 チャレンジキャンプ2024 ～仲間と共に踏み出す自分の一歩～

団体名 国立妙高青少年自然の家

背景
・
課題

「教育再生実行会議第十次提言（平成29年6月）」では、これからの時代に求められる資質・能力を育成するためには『子供たちが自信をもって成長し、より良い社会の担い手となるよう、子供たちの自己肯定感をはぐくむ取組を進めていくことが必要』としている。また、「第3期教育振興基本計画」IV-1-（2）でも、豊かな心の育成のための施策として、子供たちの自己肯定感・自己有用感の育成を挙げている。

このように、自己肯定感を育成することは、子供たちが夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力を育むために必要不可欠といえる。

事業趣旨

統合型キャンプとして実施し、課題を抱えている子供たちが他の参加者とのかわりを通して、課題を乗り越えていく過程で自己理解や他者理解を深め、子供たちの自己肯定感を育むことを目指す。

自己肯定感の1ヶ月後の変化が2023よりも改善できるように水上アクティビティを選択制にしたり、徒歩移動の際のルートマップを工夫したりする。

事業の内容

<実施にかかる体制>

国立妙高青少年自然の家職員3名・学生スタッフ2名・スーパーバイザー兼臨床心理士1名（筑波大学教授）

<テーマに基づいた試行、検証等の方法>

・スタッフの参与観察による子供たちの質的変容・質問紙調査（自己肯定感尺度等）による量的変容

<活動の内容>

○実施期間

- ・令和6年7月6日（土）～7月7日（日）事前キャンプ
- ・令和6年7月27日（土）～8月4日（日）本キャンプ

○実施場所

- ・国立妙高青少年自然の家
- ・上越市、妙高市等の周辺施設

○参加者属性、人数

- ・小学校5年生～中学校3年生（14名）※心理的な課題や発達障害等を含む様々な個性や特性をもつ参加者数名

○具体的なプログラム内容

- ・徒歩による全行程100kmの移動・野外炊事、テント泊、ソロテント泊、ソロ飯、サップ・カヤック体験、火打山・妙高山登山

<成果普及実績>

- ・報告書1000部配布・HP掲載、マニュアル作成、HP掲載



成果及び今後の展開

【成果】

自己肯定感尺度における対自己領域及び対他者領域について、領域ごとに得点を算出し、一要因分析を行った。

その結果、対自己領域、対他者領域ともに、キャンプ事前から事後への向上が見られた。ビックチャレンジともいえる火打山、妙高山の縦走登山、100kmもの道のりを歩き切ったことによる達成感や充実感を得たことによるものと考えられる。

また、個人の振り返りシートを工夫し、文章だけにこだわらず、達成度、イラスト等で自己のがんばり、成長についての気付きを促すことができた。これは、ルートマップを工夫し、交差点の様子や歩くペースを示したり、水上アクティビティでの活動を選択制にしたりして、活動の主体をより参加者を意識したものにしたことにより、キャンプ終了後も高い得点を維持することができたと考える。

【今後の展開】

○近年の状況にかかわって

地球温暖化、貧困家庭等、近年子供たちを取り巻く環境の変化に対応したチャレンジキャンプの在り方を模索していく。

○参加者同士の協働場面に充実させたり、キャンプ後も自信をもって生活できるように手立てを講じたりしていく。